

小6 学習内容

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	
小6 夏季 特別 合宿	国語	各70分 ×7コマ	言語と 人間関係	言語と コミュニケー ション	自然と科学 環境問題①	自然と科学 環境問題②	文化の比較 生活習慣	現代社会と ライフスタイル	現代社会と 時事問題
	算数 A	各70分 ×5コマ	割合と比	相当算 還元算	倍数算 年齢算	売買損益 食塩水の濃度	仕事算・割合 と比の利用		
	算数 B	各70分 ×5コマ	和差算 分配算	差集め算 消去算	つるかめ算	平均と集合	表とグラフ		
	理科	各70分 ×5コマ	てこ①	てこ②	滑車①	滑車②	りんじく		
	社会	各70分 ×5コマ	地理小問演習 ①	地理小問演習 ②	歴史小問演習 ①	歴史小問演習 ②	総合演習		

《国語》

入試問題では実に幅広いテーマの文章が出題され、受験生の思考力が試されます。その場しのぎで答案を埋めようとするのではなく、普段から様々なことに興味を持ち、読解の手助けともなる背景知識を養うことが重要です。

そのために合宿ではいくつかの入試頻出テーマに絞り、普段より少し時間をかけて文章を読み解きます。また何が問われているのか「出題者の意図」を正確にとらえ、設問条件（解答形式・字数など）に合った形で解答をまとめていく訓練を数多く重ねます。

また国語力の前提となるのは豊かな言葉の知識であることは言うまでもありません。夏季講習と連動して漢字や熟語、慣用句やことわざなどについても、演習形式で意味や用法を確認していきます。

《算数》

一般に入試問題の構成は、基本が40～50%、応用・発展が10～20%、残りの30～50%が基本を組み合わせたテキスト標準レベルの問題です。合格最低点がおおよそ60～65%であることを考えると、基本問題を取りこぼさないことに加え、この標準問題の出来が合否の明暗を分けるといえます。確実に得点を重ねていくためには、速く正確な計算力と基本一行問題（単位・速さ・比・割合）への習熟が必須です。

合宿では短期集中学習の特性を活かし、この基本問題の徹底演習を軸に据えます。10時限の授業をAとBに分け、それぞれ「比と割合」「和と差の文章題」を集中的に扱います。夏季講習と合わせ、9月以降の入試問題演習につなげていく実践的な内容です。

《理科》

毎年、受験生の多くが苦手とする計算問題、中でも多くの学校で出題される「てこ・滑車・りんじく」に絞って「力」（物理）分野の克服に重点を置きます。

「力」の問題は示されたいくつかの要素を漏らさずに式をつくり、正しい手順で計算していくことが求められますが、最近の入試問題では難解なものは減少し、標準的な計算問題の出題が増えています。「何となくニガテ」なまま勝負を避けることなく、解ける問題を確実に得点にしていくことで、ライバルに差をつけることが出来るでしょう。

合宿ではもう一度、イチから手順を確認します。まずは基本問題をミスなく解いていくことから始めましょう。

《社会》

地理・歴史の小問集合500題に取り組みます。受験生として備えておくべき基本知識から入試頻出の重要語句まで、徹底的な演習で語彙を増やします。

授業では1問15秒、20問を5分間で解答し、直後の解説までを1ターンとして4～5ターンくり返します。地理頻出の各種データや、歴史の年号も扱います。

よく似ていて紛らわしい語句の区別・整理、地図上での正確な位置の把握、漢字での表記など、得点力に直結する部分を徹底的に鍛えます。また、覚えた語句をつかった基本的な記述式問題の練習も行います。いずれも『合宿GP』で定着度を測ります。